



No. 50

30. September. 2022

日本ホスピス緩和ケア協会

NEWS LETTER ニューズレター

Hospice Palliative Care Japan

日本ホスピス緩和ケア協会事務局

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

ピースハウスホスピス教育研究所内

TEL 0465-80-1381 FAX 0465-80-1382

Website <https://www.hpcj.org/> E-mail info@hpcj.org

総会・新理事会が 開催されました

2022年 7月16日(土)、第15回総会が 165名の参加と83名の委任状によりオンラインで開催されました。詳細は総会議事録をご確認下さい。総会では新理事が選任され、8月6日に開かれた新理事会において、理事長、副理事長が互選によって選出されました。

シン・理事長メッセージ

支部・地域活動支援と教育支援を重点課題に 組織は変化して進化する



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
理事長 志真 泰夫

シン・理事長とは

最近、「シン〇〇」という映画のタイトルを見かける。この映画タイトルをつけた映画監督によれば、「シン」は、新規の「新」でもあるし、進化の「進」でもあるし、深化の「深」でもよい、観る人にとってぴったりくるものであれば、それでよいとのことである。

当協会の理事長は、1991年から2004年まで柏木哲夫先生、2004年から2010年まで山崎章郎先生が務めた。わたしは、2010年から足掛け12年務めた。そろそろ交代の潮時と思ったが、もう2年やれという理事の声があり、改革の道半ばという思いもあり、引き受けることとなった。そこで「シン・理事長」である。「新」ではない、「深」でもない、敢えて言えば「進」であろうか。協会を前に進め、進化するためにあと2年、会員のみなさんの協力と支援をお願いしたい。

これからの協会について

「協会の組織のあり方に係る課題」を検討するための作業部会(Working Group: WG)を設けて、副理事長を中心に検討を進めた。総会で副理事長3人からその一端を報告してもらった。

安保理事からは「これからの地域支部活動の在り方

と方向性について」、田村理事からは「教育支援体制の今後のあり方について」、宮下理事からは「ケアの質の向上と保証について」、それぞれ新たな方針と戦略が示された。

わたしの役割は、3人の副理事長が示した今後の方向性を具体的な事業として実現するための仕組みを作ることだと思う。まず、木村理事に委員長をお願いした「支部・地域活動支援委員会」の運営を軌道に乗せること、次に組織を再編成した「教育支援員会」の活動を強化することだと考えている。

時代の変化は速い。そして、後戻りすることはない。もはやCOVID-19パンデミック前の世界に戻ることはない。ホスピス緩和ケア協会は新たな時代の環境の下で適応し、進化してゆかねばならないと私は考えている。

副理事長就任のご挨拶



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
副理事長 安保 博文

この度、前期に引き続き副理事長を務めることとなりました六甲病院緩和ケア内科の安保です。

過去2年間、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、緩和ケアの基盤は大きく揺るがされてきました。感染リスク軽減のための面会制限やボランティア活動の中止などにより、緩和ケア病棟でのケアのあり方は大きく変わりました。また、面会困難な入院環境を避け、在宅療養を選択する患者・家族が急激に増加するなかで、在宅緩和ケアに求められるものと提

供できるケアの内容の不一致が生じるケースも少なからず生じてきています。協会としては、会員施設および施設利用者を対象としたアンケート調査等によって情報収集を行うとともに、混乱した状況のなかで各施設がケアの質を維持するための支援を行ってきました。私が担当する質のマネジメント委員会では、昨年7月に発表した「緩和ケア病棟の基準」の作成、年2回の「緩和ケア病棟運営管理者セミナー」のWeb開催、そして昨年秋の「自施設評価共有プログラム」の実施などにより、緩和ケア病棟のケアのあり方に関する施設内および施設間での情報交換を支援してきました。

これからの2年間は、新たな変異株による感染拡大に対応しつつ、より多様なニーズに応える質の高い緩和ケアを提供することが求められることになるものと考えられます。副理事長および質のマネジメント委員会として、緩和ケアの提供体制の充実に向けて努力していく所存です。どうぞよろしく願いいたします。



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
副理事長 田村 恵子

新型コロナウイルス感染の収束が見えないまま、緩和ケア病棟では、患者や家族など患者にとって大切な方に対して希望に沿った緩和ケアを提供することが困難な状況が続いております。このため医療従事者は、職務を全うしたいのにそれが十分にできないことで、患者や家族、チームに迷惑をかけて申し訳ないと、職業モラルの傷つき(moral injury)を強く感じています。このようななか、日本ホスピス緩和ケア協会副理事長に再任され、改めて責任の重さを感じています。前期に引き続き、教育面から皆さまの支援に取り組んでいきたいと思っております。

2022年3月実施された「協会の運営・事業に関するアンケート」では、今後協会に取り組んでほしい事業として、「緩和ケア従事者への教育支援」が最も多く、かつ看護職への教育支援を中心に教育支援活動について期待が非常に多く寄せられていました。こうしたご意見を踏まえて、今期、教育支援委員会の組織再編を行いました。教育支援委員会のもとに、医師教育支援部会、看護師教育支援部会、MSW教育支援部会の3つの部会を設置し、これまで活動評価に基づいて、現状の課題解決を目指して新たな活動に取り組んでいきます。さらに、緩和ケアの核となる多職種チームによる全人的ケアの充実を目指して、多職種教育プログラム作成WGを設置することにしました。手探り状態でのスタートです。是非とも、皆さまのご支援をお願い致します。



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
副理事長 宮下 光令

この度、2期目の副理事長を仰せつかりました東北大学の宮下です。今期も緩和ケアデータベース委員会の委員長を拝命しております。

緩和ケアデータベース委員会では前期の2年間でインターネットを利用した遺族調査システムの本格的な運営を開始しました。2022年8月現在、139施設に利用していただいております。ご遺族からは2,836件のご回答をいただいております。開発当初は最初は10施設くらいが参加していただければいいかなと思っていたので、想像した以上にご活用いただき、感謝しております。

本格運用を開始したのが新型コロナウイルスが日本でも広まりはじめた2022年の春でしたので、慌てて面会制限に対するご遺族のお気持ちに関する質問を加えました。この結果は総会等でご報告しておりますが、多くのご遺族が面会制限を仕方ないと受け止めており、そのなかでもある程度面会を維持しつつ、患者さんの状況をご家族に丁寧に説明するなど緩和ケア病棟が取った対応を高く評価していることがわかりました。今後の2年間はネット遺族調査のシステムを、より皆様にご活用いただけるように修正しつつ、結果に関しても会員施設や一般の方向けに発信していきたいと考えております。

また、この2年間では年1度の施設概要調査のシステムの全面的な改修を行いました。施設概要調査は会員施設の皆様だけでなく事務局にも多大な手間をおかけしておりましたが、少し軽減されたかと思っております。会員施設の方にはどうしてもご負担になる調査ですが、日本のホスピス緩和ケアの現状を明らかにする大変貴重なデータになりますので、ご協力願えれば幸いです。

昨今の緩和ケア病棟の疼痛評価加算に関しては異論も多いと思っております。私も現場を分かっている人がつくった間違った加算だと思っております。しかし、違う観点からみると、この加算は緩和ケア病棟に対して構造要件だけでなく、どのようなケアがされているかという質を評価していこうという試みと捉えることができると思っております。今後、診療報酬改定や制度設計に関してはデータをもとにして協会と関係機関が積極的なコミュニケーションを行っていくことが必要になってくると思っております。緩和ケアデータベース委員会では他の委員会とも共同して、そのお手伝いができればと思っております。今後ともよろしく願い申し上げます。

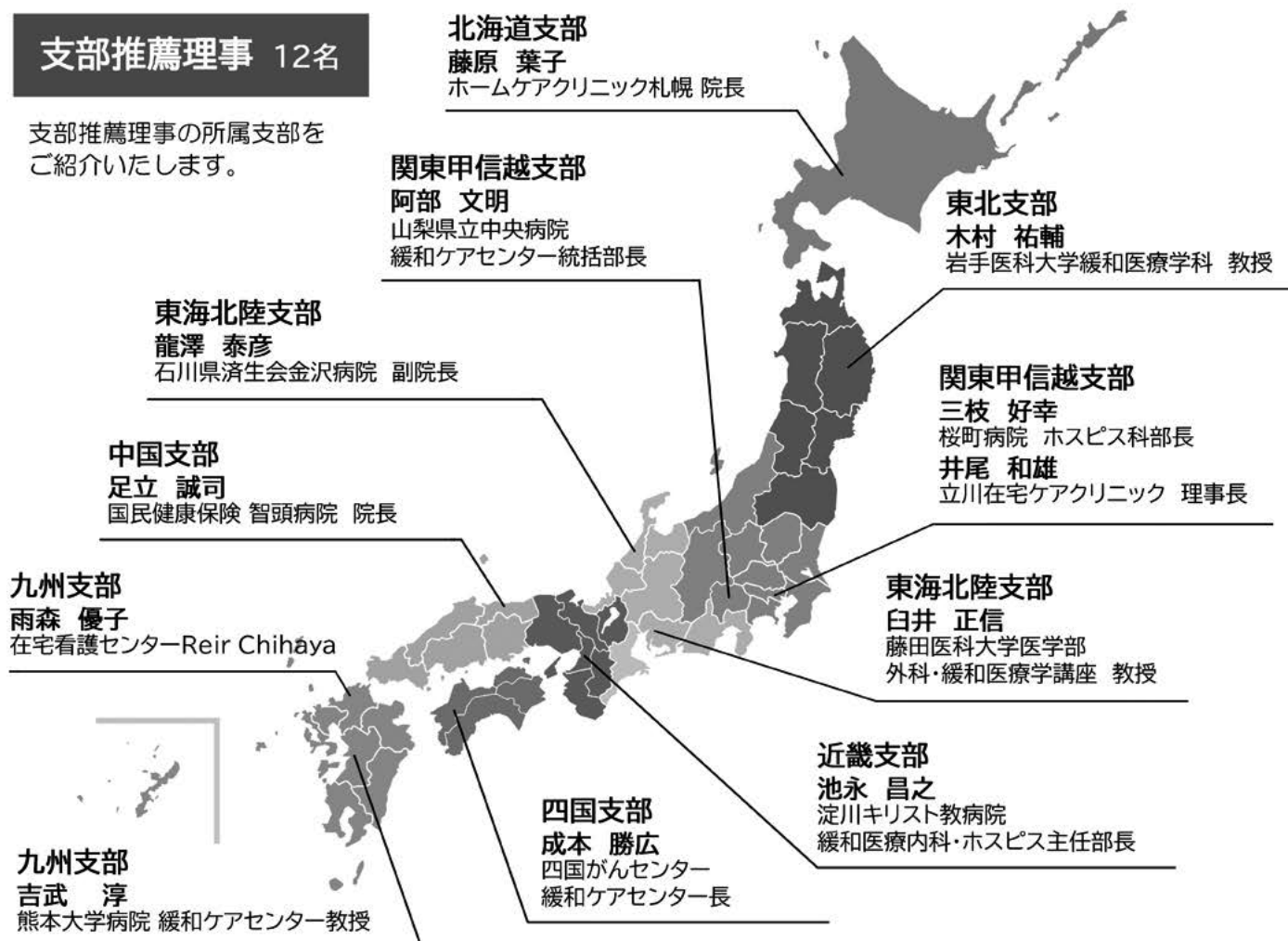
協会の事業と委員会活動

当協会は、法人の活動を推進し特に専門委員会活動を担う「理事会推薦理事」と、8支部から選出された「支部推薦理事」で理事会が構成されています。2022年度協会が取り組む事業と理事会推薦理事が所属する委員会をご紹介します。

事業	活動内容	理事会推薦理事 14名
事業1	啓発普及 「緩和ケア週間」を中心に 啓発普及活動の呼びかけ	★：委員長 教育支援委員会 ★田村 恵子 京都大学大学院医学研究科 緩和ケア・老年看護学分野教授 石原 辰彦 岡山済生会総合病院 診療部長 太田多佳子 松山ベテル病院 医療ソーシャルワーカー 【部会】医師教育支援部会、看護師教育支援部会、MSW教育支援部会 【WG】多職種教育プログラム作成WG SPACE-N WG 緩和ケアデータベース委員会 ★宮下 光令 東北大学大学院 医学系研究科 教授 質のマネジメント委員会 ★安保 博文 六甲病院 緩和ケア内科部長 岡本 禎晃 市立芦屋病院 薬剤科部長 認証委員会 ★高宮 有介 昭和大学医学部 医学教育講座 教授 志真 泰夫 筑波メディカルセンター代表理事 在宅緩和ケア委員会 ★矢津 剛 矢津内科消化器科クリニック 理事長 白山 宏人 大阪北ホームケアクリニック 院長 【新設】支部・地域活動支援委員会 次頁にて紹介 医療・介護保険委員会 ★中橋 恒 松山ベテル病院 院長 山田 祐司 愛和病院 理事長 林 章敏 聖路加国際病院 緩和ケア科部長 河 幹夫 神奈川県立保健福祉大学 名誉教授
事業2	教育研修 多職種教育プログラム 医師研修指導指針 看護師教育プログラム MSWセミナー 各支部での講演会など	
事業3	質の向上 調査研究 緩和ケア現況調査 インターネット遺族調査など	
	「緩和ケアの基準」の策定・広報 緩和ケア病棟自施設評価プログラム 管理者セミナー	
	緩和ケア質向上の取組みの認証	
	在宅緩和ケアの質の向上	
事業4	広報 ニューズレター発行 メールマガジン発行	
	情報交換 年次大会開催 支部幹事会	
事業5	国内外連携 緩和ケア関連団体会議 日本在宅ケアアライアンスへの参加 APHNとの連携	
事業6	政策提言 診療報酬に関する検討と提言	
その他	管理業務等 総会・理事会・常任理事会の開催 会員管理、求人情報、財務管理等	

支部推薦理事 12名

支部推薦理事の所属支部をご紹介します。



支部・地域活動支援委員会発足

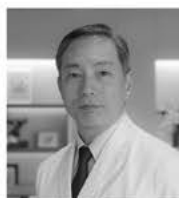
2022年度より、支部活動の更なる推進を目指して「支部・地域活動支援委員会」が新たに発足し、各地域の理事が委員となりましたので、ご紹介いたします。

★木村 祐輔 岩手医科大学 緩和医療学科 教授
藤原 葉子 ホームケアクリニック札幌 院長
三枝 好幸 桜町病院 ホスピス科部長
山田 祐司 愛和病院 理事長
龍澤 泰彦 石川県済生会金沢病院副院長

白井 正信 藤田医科大学医学部 外科・緩和医療学講座 教授
白山 宏人 大阪北ホームケアクリニック 院長
足立 誠司 鳥取市立病院 診療局長
成木 勝広 四国がんセンター緩和ケアセンター長
吉武 淳 熊本大学病院 緩和ケアセンター 教授

支部・地域活動支援委員会 委員長就任のご挨拶

岩手医科大学緩和医療学科
教授 木村祐輔



この度、新設された『支部・地域活動支援委員会』委員長を拝命しました、岩手医科大学緩和医療学科の木村祐輔と申します。

私は、1994年に岩手医科大学を卒業後、消化器外科医として約20年間、主に食道癌の集学的治療に従事して参りました。2007年から当院緩和ケアチームリーダーを兼任後に、2014年に外科医としてメスを置き、緩和ケアの臨床・教育・研究に一意専心に臨んで参りました。現在は、2019年に新設した緩和ケア病棟の運営も併せて、当院ならびに岩手県全体の緩和ケアの推進を目指して活動して

おります。当協会におきましては、2019年度より秋田県の嘉藤茂先生の後任として、東北支部代表理事を務めております。東北支部では、嘉藤先生をはじめ多くの支部会員の方々により構築された『緩和ケア研修交流事業』を、支部活動の中心軸として大切に継続して参りました。この事業は会員同士の連携を深めることにより、東北全体のホスピス緩和ケアの普及・推進を目指して実施してきたものであり、今回、この取り組みをご評価頂き、『支部・地域活動支援委員会』委員長に任命いただいたものと考えております。今後は、当委員会の委員にご就任いただく各支部の皆様と共に、それぞれの支部の特徴に応じた地域活動の活性化策を考えつつ、患者さんやご家族により質の高いホスピスケアを届けるべく知恵を絞って参りたいと思います。

微力ではございますが、協会の更なる発展に尽くして参りますので、今後とも、より一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

これからの支部・地域活動の事例紹介



支部・地域活動支援委員会が発足したことに関連して、既に支部内近隣地域でのケアの質の向上や普及・啓発活動、会員以外の医療機関や団体との意見交換・連携について、実際に地域で取り組んでいる2施設より、活動報告をお寄せいただきました。

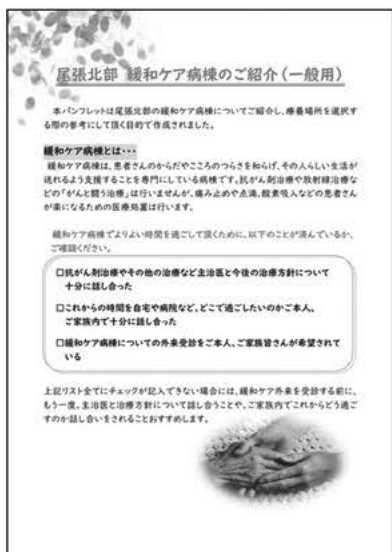
尾張美濃緩和ケア会議のご紹介

JA愛知厚生連江南厚生病院 木原里香

尾張美濃緩和ケア会議は、愛知県尾張北部医療圏を中心とした緩和ケア病棟を有する病院の地域での情報交換や地域連携のあり方を協議し、この地域で緩和ケアを必要とする患者家族の支援に活かすことを目的として2013年に発足しました。事務局の小牧市民病院、名古屋徳洲会総合病院、岐阜県立多治見病院と当院で発足し、2019年以降一宮市立市民病院、済衆館病院が加わり、現在計6施設で構成されています。年2回の会議では各施設の医師、看護師、医療ソーシャルワーカーが参加しています。

2020年以降新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い開催を見送っていましたが、2021年度よりオンラインで開催しています。会議では各病棟の利用状況、運営上の課題、病棟連携や在宅医療機関との連携上の課題について話し合っています。また、紹介元医療機関が患者さんやご家族に案内しやすいよう参加施設で「緩和ケア病棟共通パンフレット」を作成し配布しています。こうした紹介元医療機関である愛知県がんセンター等の地域連携担当者を会議に招聘して、情報共有や連携上の課題の検討も行っています。オブザーバーとして在宅医にも入っていただき、メーリングリストを作成し、病棟運営上の相談や情報共有に活用しています。

緩和ケア病棟間の連携を強化することにより、各施設の専門的緩和ケアの充実や地域連携を通じて地域における緩和ケアの普及・啓発への貢献を目指しています。



【会議で作成した共通パンフレット】

「京都ホスピス・緩和ケア病棟連絡会」の活動報告

京都府幹事 酒井 和加子

「京都ホスピス・緩和ケア病棟連絡会」は2017年9月に発足しました。その経緯と活動内容の一部を報告します。

京都府の緩和ケア病棟が10施設となり、病床数が目標の8割を超えた当時、質の向上を図るため、各施設が緊密に繋がることが必要ではないかと考えました。個々の施設が抱える問題を気軽に話しあい、共に悩み考え相互理解を深める場、知恵と力と心を合わせて成長・発展させていく場、新規立ち上げ施設を支援する場として、連絡会を立ち上げました。

3ヶ月毎の開催で、運営は輪番制としました。コロナ禍で2019年10月～2021年1月まで休会となりましたが、2021年6月からWEBで連絡会を再開しています。

連絡会では、各施設の現状を報告し、連絡事項を確認する他、その時々のお話(緊急入院・輸血・喫煙・遺族会・診療報酬改定に伴う情報共有等)をテーマに議論もしました。また、「緩和ケアの中で大切にしていること」をテーマに、ワールド・カフェ形式の会議も行いました。

京都府のホスピス・緩和ケア病棟は、現在16施設に増えています。毎年4月に連絡網の確認をすることも当連絡会の大切な役割のひとつです。

今後は、本年6月に発足した師長会が軌道にのること、連絡会が多職種の会に発展すること、府内緩和ケア病棟の施設間交流を実現し、京都府の緩和ケア病棟がひとつのチ

ームとなり、緩和ケアの質の向上に寄与できることを望んでいます。



【「ワールドカフェ形式の会議時の一場面」のイラスト】
作 京都民医連中央病院 荻野医師



2022年度緩和ケア病棟運営管理者 オンラインセミナー報告書

テーマ：緩和ケア病棟の本質を踏まえたスタッフへの
ケアと教育支援

対象：緩和ケア病棟管理者(医長および師長)

参加者：約140名(申込者 154名)

【第一部】

質のマネジメント委員会の柏谷優子委員、池永昌之委員、足立光生委員、安保博文委員長より、テーマに基づいたプレゼンテーションが行われました。

安保委員長より総括として、下記が述べられました。

- ・緩和ケア病棟では、人間科学的な要素を含む対応が求められており、問題解決思考だけでは対応ができない
- ・チームにとって、スタッフ個人にとっての困難な出来事には、必ず緩和ケアの本質にかかわる事柄が含まれている
- ・困難な出来事を取り扱うには、管理者にもある種の哲学、そして対話力が要求される
- ・困難にあるスタッフのケアを端緒にして緩和ケアの本質に触れることができ、それによってスタッフのみならずチームも成長する機会が得られる

【第二部】

予め示されたテーマ「①スタッフが直面する困難と緩和ケアの本質をどう結ぶか」、「②スタッフへのケア・教育において管理者が留意すべきこと」について、4～5名の小グループに別れてディスカッションを行いました。各グループで話し合われた内容はチャットに書き込んでいただき、最後に全体で共有しました。

終了後のアンケートでは、セミナーの内容について参加者の8割が「病棟運営にとっても役立つ」と回答し、その理由として「様々な地域のPCUの課題が共有でき、自施設で活かせる情報もたくさんあった」「管理者としてどのような病棟にしていきたいかビジョンを示す大切さに気づいた」といった声が寄せられました。また、「情報共有だけでなく、今回のように緩和ケアのあるべき姿、本質などについて話し合える機会をいただき感謝しています。ピアサポートにもなりました」等、セミナー全体についての感想も多く寄せられました。

当日の資料は、協会ウェブサイトの
会員専用ページに掲載しています
(パスワード必須)

<https://www.hpcj.org/member/kanrisha.html>

2022年度専門的緩和ケアを担う 看護師の教育セミナー報告書

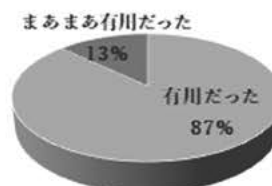
報告：看護師教育支援委員会 菅野 喜久子

2022年8月20日に看護師教育支援委員会主催による専門的緩和ケアを担う看護師の教育セミナー「専門的緩和ケアに従事する看護師の能力を可視化し、育む～SPACE-N 3ステップラダーの活用例を通して～」を開催しました。当日は、94名の参加者と15名のファシリテーター（SPACE-NワーキンググループとSPACE-N修了者）、協会事務局のご協力のもとオンラインで開催しました。参加者のほとんどは、「内容に関心があった」「臨床の教育に活かしたいと思った」とSPACE-N 3ステップラダーへの関心の高さが伺えました。

SPACE-N 3ステップラダーは、「専門的緩和ケアに従事する看護師の能力」を自己評価し、可視化することで、看護師および看護師チームの現状認識や教育プログラムへの活用を目的に開発され、2021年に日本ホスピス緩和ケア協会のHP上で公開しています。今回は、看護師教育支援委員会の高野委員より、SPACE-N 3ステップラダーの概要と活用方法を説明し、横浜南共済病院の佐藤久美恵様より、実際の活用例についてお話し頂きました。グループワークでは、「専門的緩和ケアに従事する看護師の能力を育むために、工夫できること」というテーマで、活発な意見交換が行われました。アンケート結果から「専門的緩和ケアの教育の観点で可視化できるツールを知ることが出来た」「他施設の方の意見が参考になり、自施設でも検討していきたい」「評価項目は多いが、どれも必要不可欠な項目で目標管理に活かせる」などの評価を頂きました。多くの施設や様々な部門・部署の方々とディスカッションすることで、具体的な活用方法や課題への示唆を得ることができました。

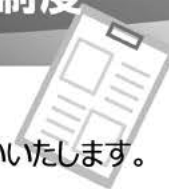
今後も、SPACE-N3ステップラダーにより専門的緩和ケアに従事する看護師の能力の熟達度を自己評価することで、個々の看護師や看護師チームの能力の評価に役立てて頂けるよう普及活動を行っていきたく思います。本セミナーの開催にあたり、ご尽力頂いた皆様に感謝いたします。

受講者への終了後アンケートより
看護師セミナーのプログラム内容はいかがでしたか？



緩和ケア病棟における質向上の取り組みに関する認証制度

2022年秋、協会正会員の緩和ケア病棟を対象とする、認証申請を受け付けます。
9月末頃に本ニュースレターに同封して申請方法のご案内をいたしましたので、ご確認をお願いいたします。



3つの要件を
満たした施設に
認証状が発行
されます



① 施設概要・利用状況調査

2021年・2022年春に実施した本調査の両方に回答し、回答内容の公開を承諾していること。

② 自施設評価共有プログラム

2021年秋に実施した本プログラムに参加し、集計フォーマット・総合コメント・自由記載欄の意見の3点を協会へ提出していること。

③ インターネット遺族調査

本調査に参加し、遺族に調査票を送付後、5名以上より回答を得ていること。
またはJ-HOPE4に参加し結果報告を受けていること。

ホスピス緩和ケア週間

2022年10月2日(日)～10月8日(土)

世界ホスピス緩和ケアデー

2022年10月8日(土)

この2年間は、新型コロナウイルスの感染拡大により、緩和ケア病棟の閉鎖や院内クラスターの発生など、緩和ケアの提供にも様々な影響が生じました。このような時にも、このような時だからこそ、緩和ケアを提供し続けられるように、緩和ケアの啓発普及活動に参加してみませんか？ホスピス緩和ケア週間では、ホスピス緩和ケアに関する自作の動画を募集しています。

内容：緩和ケア病棟やチーム、在宅緩和ケアの紹介、セミナー、パネル展示、ミニコンサートの様子など

時間：2～10分（最大10分/容量500MB以内）

投稿受付期間：9月1日(木)～10月31日(月)

詳細は協会ホームページ「2022年度ホスピス緩和ケア週間」をご確認ください



HEALING HEARTS & COMMUNITIES
WORLD HOSPICE &
PALLIATIVE CARE DAY 8 OCT 2022

求人掲載をご利用ください

正会員施設の求人情報をホームページに掲載しています。利用をご希望の場合は、ホームページの会員専用ページから求人登録票をダウンロードし、必要事項を記載の上、協会事務局まで郵送して下さい。掲載費用は無料です。

2022年度 入退院患者集計フォームを配付開始

会員専用ページにて、2022年度の入退院患者集計フォームの配付しています。集計フォームをご利用いただくと、2023年 4月実施の施設概要・利用状況調査でご回答いただくデータが、自動的に集計されます。予め、入力を進めて下さいますようお願い申し上げます。

インターネット遺族調査 参加施設随時募集中！

協会の正会員に登録している緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、一般病院、診療所等が対象です。参加を希望する正会員は、インターネットの申込フォームからお申し込みください。なお、申込フォームのURLが分からない場合は、izoku@hpc.j.org宛にお問い合わせいただければ、URLをご案内いたします。

事務局通信

